

いよいよ前期も残りわずか…中学1年生も折り返しです。

中学校生活で初めての夏休みが終わりました。夏休み期間中も部活動に取り組んだり、夏休みの課題学習等に取り組んだりしていたと思います。学校が再びスタートすると生活リズムを取り戻そうと、心も体も疲れやすくなります。前期もあとわずか…10月には中学校前期の通知表等も返され、学習の成果と課題が浮き彫りになります。保護者の方の温かなサポートをお願いします。



ピグマリオン効果とゴーレム効果

ピグマリオン効果とは、他者からの期待が、その人の行動や成果に良い影響を与える心理現象のことです。それとは逆に、他者から期待されていないと感じると、意欲が低下し、パフォーマンスが落ちる現象を「ゴーレム効果」といいます。ピグマリオン効果とゴーレム効果は、他者の期待が、個人の行動や成果に与える影響の正反対の例と言えます。

期待を言葉で伝える

…期待を具体的に言葉で伝え、相手に明確に伝える

適切な目標設定

…相手の能力や状況に合わせた、達成可能な目標を設定する

小さな成功体験を積ませる

…達成可能な目標を少しづつクリアしていく

成長を促すフィードバック

…成果だけでなく、目標達成に向けたプロセスも評価し、適切なフィードバックを与える

裁量を与える

…適切な範囲で裁量を与える

ただし、過度な期待は禁物です。期待に応えられない場合には自信を失ってしまうこともあります。また、進路やテストの順位など期待を押し付けすぎてしまうことで、気付かぬうちに教育虐待に繋がる危険性もあります。ピグマリオン効果を上手に使っていきましょう。

教育コラム 「赤毛のアン」は友だち

朗読家 見澤 淑恵 氏より

ある小学校の校長先生に、お昼の校内放送で「赤毛のアン」の生放送での朗読を依頼された。子どもの頃から何度も読み返した本だから即答で引き受けてしまったが、1年生から6年生が聞いている校内放送で、低学年にも内容が伝わるようにしつつ、主人公アンが語る魅力的な情景描写はそのまま伝えたいなど考えると意外と大変な仕事となった。しかし、その作業を進めていくと、私が様々な年代で読んだ時の記憶が蘇ってきた。アンの見るもの経験することに感動して夢中になったこと、コンプレックスに悩んでいた小中高生時代には、コンプレックスをエネルギーに変えて逞しく成長するアンにどれだけ勇気をもったことか。

大人になってからも、「赤毛のアン」の良さについて書かれている書を読み、読み返す機会がある。脳科学者の茂木健一郎氏は、「赤毛のアン」には、人と人が出会うことの大切さ、人間の変わっていく可能性が描かれている、と言っている。確かに成長しているのはアンだけではない。育ての親である50歳を超えていた2人の大人マシューとマリラも、アンと出会ったことで思いもよらぬ変化を遂げている。

さて、親が子に与えてあげたいものは何か。私は「生きる力」を与えたいと考える。子どもが自立して生きるために、多くの人と繋がり、お互いに助け合っていくことが必要だと思う。しかし、現代社会では人と人との繋がりが薄くなっている為の課題も多くあるように思える。コロナ禍が続く中で、直接人と人が出会う機会が制限されている今こそ、本の主人公や登場人物を生涯の友とできる読書をお勧めしたい。そして、その本の文章をぜひ声に出して朗読していただきたい。本の中の友のセリフは、声に出すことで息遣いが聞こえ、豊かな言葉がより鮮明に脳裏に広がり、読書の魅力に引き込まれることだろう。1冊の本との出会いが、人生に影響を与えることがある。良き出会いを。

一冊の本や、ある一言、ある出会いが人生に大きな影響を与えるかもしれませんね

<参考> 家庭教育応援ナビ「すくすく育ていばらきっ子」茨城県教育委員会



「家庭教育応援ナビ」QRコード 「家庭教育応援ナビ」公式X QRコード



X @Katei_sukusuku
すくすく育ていばらきっ子

